夏は休み

１．テントウムシの夏眠

テントウムシは成虫として物陰に隠れて越冬します。春、植物の新芽が伸び始めると活動を開始し、産卵を行います。このような生活様式は植物に付くアブラムシ（アリマキ）を成虫・幼虫ともに餌としているからです。植物の伸長が盛んな時期は、茎は柔らかく同化物質の移動も活発で、アブラムシは雌のみで効率よく繁殖し、個体数を大きく増やします。冬眠から覚めたテントウムシにとって有利な時期であり、成虫・幼虫ともによく目につきます。

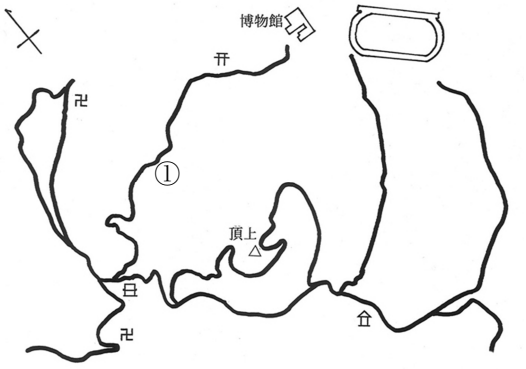
テントウムシ

テントウムシ幼虫

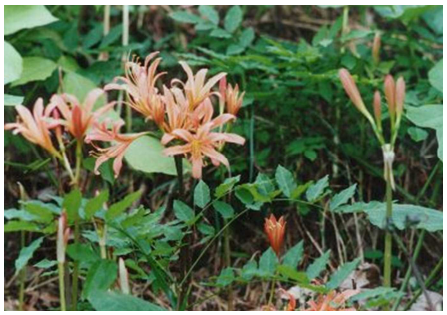
ところが、夏が近づくと植物の伸長も止まり、アブラムシは春の宿主から夏の宿主へ移動します。この餌のアブラムシの少ない時期にテントウムシは物陰で眠りにつくのです。これを夏眠とよんでいます。体温調節機能を持たないマイマイや昆虫など無脊椎動物は、夏の高温を休眠するものが知られています。太陽の直射を受けない陰で、エネルギーを消費しないように過ごし、秋になると再び活動を始めるのです。

生きものは、餌生物の消長や気象の変化に合わせて、生活のスタイルを組み立てているので、環境の大きな変化にはついていけないのです。

２．キツネノカミソリの葉（地図中①地点）



ヒガンバナの仲間のキツネノカミソリは、葉と花が同時に見られない植物です。盆の頃に林床で朱色のユリ型の花がみられますが、葉はありません。春に芽が出した葉は夏には枯れています。このことと葉の形が、キツネノカミソリ（狐の剃刀）の名の由来です。



キツネノカミソリの花

キツネノカミソリの葉

樹木の新葉が展開されるまでに、林床で光を十分受けて光合成で球根に栄養を蓄え、周りの草が茂るときには葉を落として休眠に入ります。春までの長い眠りではなく繁殖を途中にはさむタイプです。花粉の運搬を契約している昆虫の活動時期に合わせて、花だけは咲かせるのです。花の咲いていた場所を覚えておくと、葉が出た時にわかります。競争の中で生まれたいろいろな生活のパターンのひとつです。

（倉吉博物館専門委員　國本洸紀　2012）